

事業所における自己評価結果 (公表)

公表日: 令和6年3月8日

事業所名: 発達支援研究所スプラウト

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		プログラムに合わせてコーナーを作り構造化している	
	②	職員の配置数は適切である	○		配置基準に合致している	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		掲示板の設置、絵カード等の掲示、遊びコーナーは定位置にするなど分かりやすい環境設定をしている	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			療育室、遊具教材など都度消毒し、衛生環境に十分注意をはらっている
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		療育前後のミーティングをはじめ職員、児発管、療育アドバイザーによるケース検討会を実施し振り返り次に活かしている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			療育前後の保護者面談や年度に2回保護者会を実施、利用者のニーズ、意見を反映させている
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HPへの掲載
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		来年度以降の実施を計画中
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			内部研修の実施、外部研修に参加している
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			アセスメントの利用を進めるとともにツールの充実を図る
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			ガイドラインに沿った個別支援計画を作成している

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			児発管を中心に振り返りを実施している
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に合わせた行事を取り入れている	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	○			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリングとしてケース検討会 や児発管、管理者によるダブル チェックの実施
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	○			利用中の相談支援事業所のモニ タリングには直接の担当者が 情報交換している
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	○			必要に応じて保護者の了解の もと連携、情報交換している
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている	○			該当せず
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている	○			該当せず
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			必要に応じて保護者の同意のもと 情報共有をしている
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校 (小学部)との間で、支援内容等の情報共有 と相互理解を図っている	○			就学支援シートの活用
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている		○		センターの職員研修等に参加 できるようにする

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある		○		
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			事業者連絡会への参加
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	○			療育前後の保護者面談を利用 して行っている
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム(ペアレント・ トレーニング等)の支援を行っている	○			ペアトレとは銘打っていないが 保護者面談、相談の中で同様の 内容を行っている
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	○			
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	○			
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している		○		父母の会はないが、年度に2回 保護者懇談会がその機会とな っている
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	○			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	○			
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	○			
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている		○		地元の商店会主催行事に 参加している
非 常 時	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
等 の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	○			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	○			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	○		おやつ配膳時に確認し対応している	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	○		ヒヤリハットに職員の確認欄を設け、全職員 の周知を徹底している	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	○			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。